

塾はどこから来たか、  
塾は何ものか、  
塾はどこへ行くのか  
—そして私—  
『私塾界』と共に駆け抜けた30年

# 真相学外研③ 進学指導の主体が、中学校から塾に移行 業者テストに翻弄される子どもと親

然と学校で、しかも多くは授業中に実施され、さらに実施日が中学によって異なっていた。このため業者テストの問題漏えいが起き、それにかんがりの学習塾が関与していたということが判明したのである。

## 情報収集力は塾の必要悪か？

ぼくが学校外教育研究会(以後学外研)の月例会で発表した資料が残っている。(1992年・1/28)平成3年度、エミール学院に通う5つの中学校(府中市3、国立市2)の生徒からの報告

- ★ 全ての中学で業者テストの問題漏えいがあり、ある中学では保護者会やHRで問題となった。
- ★ 国立駅そばのA塾・B塾はかなり組織的に漏えいを悪用している。すなわち生徒の通塾地域の中で、一番最初に実施された中学校の生徒が問題を覚え塾に報告、それを他の塾生徒に教える。

この情報が広まり、この二つの塾はかえって人気が高まった。

- ★ テスト前にA塾の生徒のノートにぎっしり書いてあった社会の項目が、全部試験に出た。
- ★ 中学校でテスト実施前に後ろの黒板に書かれていた漢字が、そのまま出題されていた。

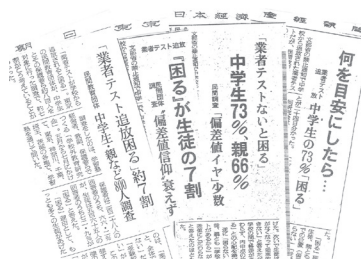
## 学校の保護者会で、「漏れ」について教師に母親が苦言を呈したら、教師はみんな知っているが、私立高校が要求している以上、どうしようもないといわれた。

こんなことは無論、許される行為ではないが、「必要悪」として通っていたのかもしれない。塾生を合格させた塾と、子どもの幸せを求める親の希望は一致する。最近、国立小学校入試にも似たような話を聞いた。男女で入試日が違うらしく、先に受けた子どもからヒアリングし、次の日に受ける子どもたちに問題を伝えていたという。合格率が塾の生命

線である限り、違法すれすれの行為は無くならない。親だつて「藁をもつかむ」気持ちで、テスト問題の情報を手に入れたらいいとするのは、至極当然のことだろう。テストを運営する側が不公平にならないよう徹底した管理をしなければならない。

## 業者テストの実施場所を変更しただけ、偏差値信仰は変わらず

紆余曲折を経て学校から追放された偏差値に対する依存度は、その後どうなっただろうか？学外研は、1993年「業者テスト問題アンケート」調査を実施したが、「業者テストがないと困る」と思う中学生と親が多数を占めることが明確となった。偏差値がわからなければ、「何を目安に」進路決定ができるか不安であったのだろう。この調査に対するメディアの反応はすざましいもがあった。発表翌日、スポーツ



学外研調査「業者テスト追放で困る」を報じる新聞各紙 1993.7/25

## 困る理由(生徒565名、保護者228名)

困る理由	生徒	保護者
ないや全体での位置(偏差値)がわからない	248名	52名
受験校の目安がわからない	147	89
学習目的がなくなるため、効率的に勉強ができにくくなる	17	2
試験の練習ができない(模擬試験として)	15	2
学校間格差があるにもかかわらず、内申点の比重が高くなる	7	10

ているのだろうか？

学外研では、この年の7月、ドイツ「業者テストが学校から追放され、あなたは困りますか？」を開催した。この会合こそ、学外研の神髄とも言うにふさわしいものとなった。いろいろの立場の人が、本音で語り合う。そしてそれをテレビや新聞各紙から発信する。次に当日の様子を『月刊私塾界』(1993.9月号)の記事で紹介しよう。

「当日は各方面からの参加者が多数駆けつけ、学士会館内の会場は開始前からすでにいっぱい、このテーマに関する人々の関心の高さがうかがえた。今回は子どもや親、学校教師にもドイツに参加してもらい、それぞれの立場から意見を発表してもらおうということへ、困る派へ、困らな



学外研の多彩なメンバー。左から、解説梁瀬さん(毎日新聞)、司会の駒野さん(女性民教審)、山田さん(中学教師)、早川さん(元学外研代表)

また、参考資料として載せた奈良県地域教育研究会調査の「中学生の保護者アンケート調査」(1993.4)のうち「偏差値についてどう思われますか」という質問には、  
絶対に必要だと思ふ 6%  
使い方次第でいい 92%  
害になるだけ 2%  
という回答があった。親が考える「使い方次第」とは、何を意味し



学外研主催ドイツ「業者テスト廃止であなたは困りますか？」を報道する『月刊私塾界』1993.9月号

い派に分かれてドイツが始めた。まず、毎日新聞の梁瀬氏が業者テストのあらましを述べた。(中略)約1時間の意見陳述、反論提起が続いた後、休憩をはさみ第2部からは一般の参加者も加わり、業者テスト問題だけでなく教育観の問題、親の意識改革など、教育問題全体に渡り討議がなされた。(中略)様々な意見が飛び交い、建設的な意見が目立つ、実りの多いドイツであった。」

さて、学外研は、業者テスト追放後の首都圏の高校入試の変化や新しい状況について概ね以下のような結論をまとめた。  
① 業者テストの舞台が、中学校から学習塾及び業者設置のテスト会場に移行した。

② 中学校における校内テストは、ほとんどの学校で増加した。

③ 私立高校の推薦入試の推薦基準は調査書が原則となった。

④ 各中学校間の、いわゆる学校間格差がクローズアップされる傾向が生じた。

⑤ 進学指導の主体が、中学校から学習塾に移行しつつある状況が生じた。

このシリーズの第3弾となる「1994年度高校受験に関するアンケート」調査報告書によれば、諸悪の根源とされた業者テストは、学校から廃止された後も会場テストとして生き残った。3年生になって会場テストを受験した生徒は87%に上り、その回数も3回が35%を占め、偏差値、データ信仰は根強いことが露呈された。これに伴い「困った」が35%に減り、逆に「困らなかつた」が65%に増加した。偏差値があれば高校受験の志望校決定には事欠かないということが明白となった。

さて、学校から追放された業者テストは首都圏で、大学や高校などに会場を移して連綿と続き、今では受験生の大切な合否判定予想ソースとして定着している。僕の塾でも中3になると年に4・5

回は受ける。都立高校入試の情報  
の塊みたいなものである。

## ※偏差値に関してのぼくらのコメント

★業者テストの問題漏えい『読売新聞』1991.8/18  
「単願推薦で有利になろうと、模範解答の入手にあくせくする子供。逆に、漏れたことを知って傷つく子供。どちらも痛手を負うことになる。全ては、中学校で業者テストの偏差値に頼った進路指導を行っていることから出た問題だ」

★業者テストが中学校から追放されて『産経新聞』1993.7/25  
「困らないという声も大半が代替テストがあるから、というのは改革にはつながらない。子供や親には、偏差値とは違った物差し、具体的イメージがまだないのでは」

## プロフィール

大沢 稔

一橋大学(社・経)卒。第一銀行(現みずほ銀行)、英国のユースホステル(ロンドン、ドーセット)を経て、27歳で塾を始める。塾全協常任理事、塾教育研究会(JKK)と学校外教育研究会(学外研)の初代表幹事。私立中高講師(21年間)、タウン紙編集長(39年間)、都庁の外国人向けガイドも務める。